

総務政策委員会行政視察報告書

委員名： 愛敬 重之

■ 岐阜県各務原市

視察日時：平成26年7月22日（火） 午前10時00分 ～

【視察事項：各務原市応援寄附金（ふるさと納税）制度とブランド推進事業の概要について】

＜視察を通しての考察・参考となった事例・感想等＞

県南部、濃尾平野北部にあり、岐阜市に隣接し名古屋市から30km圏に位置する。北部一帯は美濃山地で、南部の愛知県境に木曾川が西流する。60年代から輸送用機器を中心に産業が発展し、製造品出荷額県内1位の内陸型工業都市。航空自衛隊岐阜基地が市役所からも見え、まさしく航空宇宙産業と飛行機のまちです。

住みよさランキングについては、総合228位です。（桑名市は25位）

しかし「ふるさと納税」については桑名市よりはるかに上位で、やる気とアイデアセンスの良さを感じました。

ふるさと納税実績について

【過去の実績】

平成20年度	10件	1,450,000円
平成21年度	4件	164,000円
平成22年度	5件	728,000円
平成23年度	6件	885,000円
平成24年度	4件	790,000円

平成25年度 8,188件 124,977,000円！！

50周年を迎える事から、プロジェクトを立ち上げ、以下の3点の目的について説明がありました。4月からはブランド創造課も立ち上げていましたが、ブランドビジョンを策定中との事でした。

・各務原市のPR

物、場所、イベント、企業（外部に誇れる埋もれている企業の発掘）

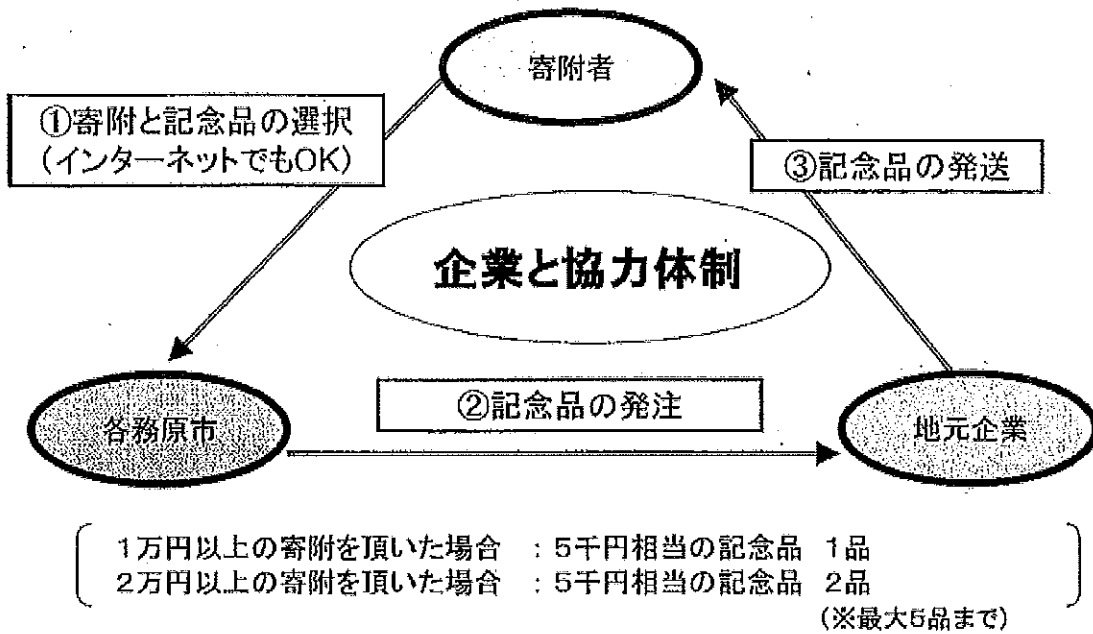
・特産品の販売促進、観光の促進、産業の振興

・寄付金の確保

ふるさと納税額、制度開始時の目標2,000万円

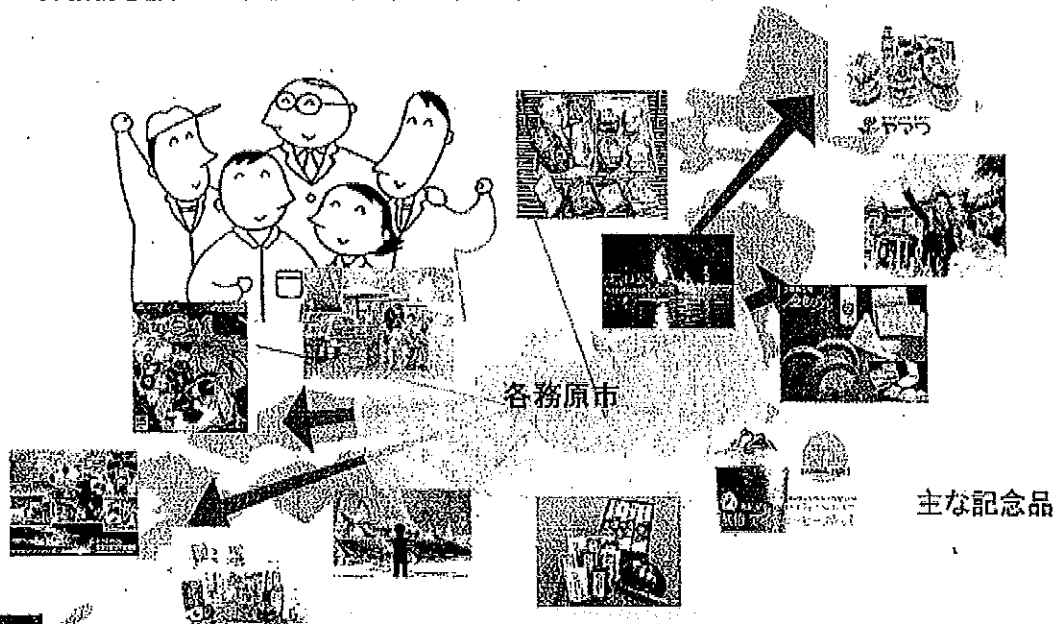


各務原市のふるさと納税制度



「各務原」を全国にPR

「各務原ブランド推進事業」の一環として、市内企業等と連携し、全国の方々に「各務原」を、また、そこにある魅力的な物や場所、人、サービスなどを発信



現時点では70品目だそうです。(記念品カタログ添付)
先進地については、鳥取県米子市のシステム等を参考にしたそうです。

工夫した点については

- ・クレジット決済・コンビニ収納の導入（全体の80%でした）
- ・記念品を多く集める（70種類）

平成24年までは、各務原市の画集が記念品でした。

いかに品目を集めるかがポイントです。食品関係は重要とのこと。マスコミ受けする商品も必要です。マニア受けするもの（岐阜基地自衛隊グッズ・岐阜県各務原市ゆかりの紙模型）や（意外な物（シュガーコーン300本）も出たとのこと。

財政課だけでは無理なので、観光や商工、商工会議所等に協力を得た。

ちなみに昨年の記念品の1位は岐阜県産飛騨牛・美濃ヘルシーポーク切り落としセット、2位は岐阜県産焼肉用お肉詰合せ、3位はたっぷり美濃ヘルシーポークすき焼き・しゃぶしゃぶ用であったとのこと。

- ・マスコミを活用する

市長自らPRすることや、特にバラエティ番組に取り上げられること。マスコミは、東京のキー局でPRするのが最大のポイントとお話がありました。

◆この事業を実施し良かった点

- ・各務原市のPRになる

【寄附者の声】

- ・昨年ふるさと納税を初めてしまして、頂いた品の写真をFacebookにアップし、会う人に各務原市を宣伝し、広報係のようになっていました。
- ・今年度2度目です。魅力ある記念品を続けて下さい。
- ・寄附の使い道については、「未来を担う人づくり応援」が多いようです。

- ・寄附金が集る（目標2,000万円達成）

◆悪かった点

- ・事務処理・寄附管理にかかる手間が膨大

【問い合わせ事例】

- ・12月に寄附し、2月になっても記念品が届きません。
- ・証明書を紛失したので再発行してください。

- ・本来の業務の圧迫（財政課7人＋非常勤職員2人で対応）

ちょうど来年度予算立案時期のピークと寄附ピークがよく似ており大変でした。

- ・なかなか市内企業の振興につながっていない

記念品を贈る際、企業の広告等（チラシ）を入れて送っているのですが、今一步のようです。継続性があれば振興に繋がると思いました。

【まとめ】

「ふるさと納税」については各務原市のお話を伺い、本市は本当に遅いと感じました。記念品については、観光課・商工課・商工会議所等コラボすればかなりの品種が桑名市にはあると思います。各務原市では、本来の業務の圧迫という事で大変苦勞されている（嬉しい悲鳴）と伺いました。本市においては、体制面をよく考えなければならないと考えます。この業務で残業代を支払っているのは寄附した方のためになりません。この事業については、「改善・効率化し継続」と考えます。

